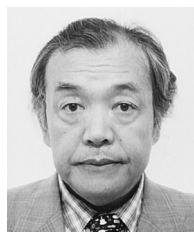


辞典を片手にジョークを楽しむ!

丸山孝男



■名は体を表わす

英和辞典のネーミングについて、ぼくは学生に話をしたことがある。ぼくの授業では、必ず英和辞典をもってくることになっていて、多くの学生が『ジーニアス』を使っていた。授業中、学生は辞典を机の上におく。一度に数多くの『ジーニアス』を見ると、改めて、その究極のネーミングに舌をまくのだ。

ぼくは、学生たちに「ねえ、きみたち、辞典の世界でも各出版社どうしが、販売部数を伸ばすために熾烈な戦いを繰り広げているんだよ。辞典の内容が大事なことは言うまでもないが、ネーミングだって大事だ。ジーニアスを超えるネーミングとなると、ウルトラ・ジーニアスとでもするのか」などと軽口をたたくと、学生たちは笑う。

学生たちが笑ったついでに、エジソン (Thomas A. Edison) の有名な言葉, “Genius is one per cent inspiration and ninety-nine per cent perspiration.” (天才とは、ひらめきが1%で、努力が99%) を板書して学生たちを鼓舞する。

■ジョークで学ぶ和製英語

ところで、このところ教室の机の上から分厚い『ジーニアス』が急速に消えつつある。多くの学生は電子辞典をもってくる。引くのが早いし、軽くて便利だ。おまけに、「和英」どころか、『広辞苑』までも入っている。

「和英」の活用となると、和製英語を扱うこともひとつのやりかただ。ぼくは時間を限定して、和製英語を正式な英語になおすことを集中的にや

ったことがある。教材として『カタカナ語を英語にする辞典』(大修館書店) を使った。アルバイト、クーラー、コンセント、ホッチキス、マスコミなど、日常生活に直結した和製英語を取り扱うことが、学生の興味をひくコツである。

いまでは、授業を活性化させるためにジョークを使っている。90分間、全部ジョークをやるのではなく、あくまでも、講読、リスニングの合間の息抜きとしてジョークを紹介するのである。

たとえば、こんなジョーク。

Tom: He was suspended from school for cheating.

Pat: I can't believe it.

Tom: He was caught counting his ribs in a hygiene exam.

cheating をすぐに「カンニング」と訳せる学生は少ない。そこで、和英で「カンニング」を見なさいという。ついでに、英和にて、cheat も引かせる。学生は、「カンニング」が典型的な和製英語であることを知る。ついでに、get caught cheating on an examination (カンニングがばれる), a cheating sheet, crib (カンニング・ペーパー) などの表現を紹介する。それにしてもこのジョーク、衛生学のテストで「人にはろっ骨が何本あるか」という設問だったのであろうか。

A man came into a hotel lobby and went to the front desk. ではじまるジョークがある。長いのでオチまでは紹介できないが、この場合も英和・和英にて「フロント」を引かせる。学生は単

に front だけでは「ホテルの建物の正面」の意味であることを知る。

ついでに、ビジネスで、日本人がアメリカ人に「ホテルのフロントで待っている」といったので、アメリカ人はホテルの前で待ち、日本人はフロントで待っていたので、お互いに会うことができなかった、などという笑い話も紹介する。

英語には、綴り字が同じで意味の異なる単語がたくさんある。このことが、なぜ、ジョーク、駄洒落として盛んに使われる。

Q: Why did the teacher put on a pair of sunglasses?

A: Because her class was so bright.

軽快な笑いを誘うほのぼのとしたジョークだ。bright が、二重の意味で使われている。和英にて「利口」を引かせれば、bright のほかに、clever, smart, wise などの表現があることを知る。ついでに、「スタイルがいい」という意味での、和製英語の「スマート」に言及してもよいであろう。

■ダブル・ミーニングのおかしさ

学生の気分をよくさせたところで、つぎのジョークを紹介する。ただし、なにも説明しないとオチを理解することはむずかしい。とくに、この種のジョークは、あくまでもジョークであることを強調しておく。日本人には、ジョークなのに真面目に解釈してしまう傾向があるからだ。英語の世界では、この種の辛辣なジョークは序の口なのだ。

Jack: Miss, will you pass the nuts?

Teacher: No, I think I'll flunk them.

二重の意味で使われている単語が2つあることを知らせると、そのぶん理解の助けになる。学生は、英和にて pass the nuts の二重の意味（ナッツを手渡す／怠け者に合格点を与える）を確認す

る。二重の意味を利用したジョークをいくつか紹介すると、つぎのジョークも簡単に理解できるようになる。なにごとにも慣れなのであろう。

The study of language can be ridiculous sometimes. I heard of someone who is beginning Finnish.
(Finnish と finish)

Customer: Is the water healthy here?

Waiter: Certainly. We only use well water.

(well: 「よい」と「井戸」)

Q: Why was the library so tall?

A: Because it had so many stories!

(story: 「物語」と「階」)

ジョークには、ことわざも使われる。

Jim: I'm worried about my daughter. She's being chased by that young doctor.

Ben: Have you tried giving her an apple a day?

『ジーニアス英和』で、apple を引くと、An apple a day keeps the doctor away. (一日1個のリンゴで医者いらず) が載っている。このことわざが頭に入っていれば、このジョークを理解するカギになる。

最後に、(1) How do you spell "mousetrap" with only three letters?/(2) Where do you take a sick horse? はどうであろうか。

これらのなぜならは、辞典をみても答えはわからない。『ジーニアス和英』で、「ネズミ捕り」を見ても、cat は載っていないし、どんなに詳しく調べても『ジーニアス英和』で horsepital という単語は見つかりません！

(まるやま たかお・明治大学教授)

